

令和 5 年度特色ある学校づくり推進事業報告書

学校番号（ 4 ） 学校名 豊田市立小清水小学校

1 テーマ 力いっぱい活動する子 ー心も体も元気いっぱいー

2 ねらい

本校は、地域・保護者との連携を重視し、講師・ボランティア・サポーターとして地域の力を教育活動へ積極的に導入して学校づくりをすすめている。本校の「特色ある学校づくり推進事業」では、本校の教育目標である「進んで学び合う子」「思いやりのある子」「からだをきたえる子」のうち、特に健やかな心と身体の育成に係る部分に重点をおき進めていく。

教育目標の実現のために、「A 学力向上」「B 心の教育」「C 健康・体力向上」「D 環境教育」「E 地域連携」の 5 つのプロジェクトがある。この 5 つのプロジェクトの中の具体的方策を推進することにより、健やかな心と身体の育成を実現していく。

- ・心身ともに健やかな子どもの育成 A B C D
- ・異年齢交流活動による子どもの社会性の育成 E
- ・地域人材の活用と家庭・地域との連携 E

3 活動内容

（1）学校サポーターによる学校生活への適応支援（1 年、特別支援学級）

- ・1 年生や特別支援学級において、給食における配膳や片付けの支援、清掃時における掃除道具の使い方や掃除の仕方の支援、休み時間（遊び）における室内での過ごし方等の支援を 1 年を通して行った。

（2）健康な心と体づくり

①学校図書館司書の活用による図書館教育の充実

- ・低学年図書室「ふたば」、高学年図書室「本の森」の活用、ダンボの会（読み聞かせサークル）との連携
- ・年 3 回「図書館祭り」の計画、実施
- ・国語科、社会科、総合的な学習等における調べ学習の支援
- ・国語科の学習と関連させた読書指導の充実

②心の相談員の活用

- ・火・水・木・金の小清水タイム（20 分）昼休み（15 分）に相談活動
- ・集団への適応に困難さのある児童への支援（校内はあとラウンジ）

③校内整備員の活用

- ・メイン花壇周辺や運動場等の環境整備

⑤食に関する指導の実践

- ・栄養教諭等専門家による「食に関するコース別学習」（5年）

⑥異年齢交流活動

- ・全学年の縦割り活動…わくわくタイムにおける異学年との集団遊び

⑦地域人材の活用

- ・町たんけんのサポート（2年）・豆腐作り体験（3年）
- ・宮口神社「棒の手、巫女舞」の実演とお話（4年）
- ・逢妻女川を守る会（5・6年）
- ・ボランティアによるサポート
 - 「日本のあそび名人になろう」（1年）
 - 「学年の畑で収穫した大根の調理」（2年）
- ・運動場等の草刈り、図書館の本の整備、登下校中の見守りのボランティア

4 成果と課題

（1）成果

①心身ともに健やかな子どもの育成

学校サポーターによる1年生への支援により、給食準備や片付け、清掃方法、休み時間の過ごし方等についてのルールがよく分かり、約束を守ってできるようになった。特別支援学級においては、より個々への支援を行うことができた。

②異年齢交流活動による子どもの社会性の育成

昨年度より、交流活動の機会が増えた。全校縦割り活動「わくわくタイム」では、低学年の気持ちを考えて遊びを工夫する高学年の姿や、班活動を楽しみにする低学年の姿があり、人間関係の広がりが見られた。

③地域人材の活用

地域学校共働本部と連携したことで、児童は地域の方から学ぶ機会が増えた。4年生は、棒の手や巫女舞の演技を見たり、槍や扇子などの実物に触れたりすることで関心が高まり、地域にあるものを大切にしていきたいという思いを児童がもつことができた。またボランティア募集により、運動会の前に草刈りをしていただき、運動場がよい状態で運動会を実施することができた。

④補助員を配置したことによる成果

- ・学校図書館司書

本校は、低・高2つの図書室を使用しているため、学校図書館司書の標準配置に

加えて本事業でも配置を行っている。子どもたちの興味関心をひくような配架、季節ごとに変わる掲示、本に関するクイズやおみくじ引きなど児童が来訪するのが楽しみになるような工夫を行った。また、年に3回図書館祭りを開いたり、多読賞の表彰を年間通して行ったりした。

学校図書館司書が週当たり2日配置されていることで、上記のような取組ができ、それにより本に親しむ子どもたちの姿が見られた。令和6年1月末現在の年間平均貸出冊数は1人当たり43.5冊と言う結果で、昨年度より0.4冊増えている。学校図書館司書の配置のおかげで、子どもたちが図書に親しんでいるといえる。

・心の相談員

養護教諭や学級担任との連携の下、悩みを抱えた子どもたちへの対応を継続的に行った。特に、不登校傾向のある子や学級になじめない子への支援では、子どもの心に寄り添った支援ができた。また、相談活動で得た情報を適宜共有することにより、子どもたちの心の問題や人間関係について、学校として把握することができた。令和5年1月末現在でのべ55人の子どもたちが、相談等で相談室を訪れた。

また今年度は、校内はあとラウンジで不登校傾向の児童の支援にもあたった。校内はあとラウンジは手探りでスタートだったため、不登校傾向にある児童への支援方法や関わり方についてアドバイスをしていただき、参考になった。

・校内整備員

本校は校地が広いため、樹木やその周辺の整備、運動場の草取りに非常に時間がかかる。年に2回保護者の方による半日奉仕活動で草刈りをしていただいているが、十分とは言えない。校内整備員の活用により、メイン花壇付近や運動場とその周辺に茂っていた雑草を手際よく刈り、整備を進めていただいたことで、子どもたちが安全に気持ちよく活動できるようになった。

(2) 課題

今年度から校内はあとラウンジが立ち上がったことにより、心の相談員2名に校内はあとラウンジで不登校傾向のある児童の支援をしてもらった。立ち上がりということもあり、試行錯誤を続けながらの児童対応だったため、課題も出てきた。その課題について話し合う時間が十分とれず、共通理解のもと支援していくことに限界が感じられた。

5 保護者・地域への情報発信の取組実績

- ・令和5年度小清水小学校経営プラン「小清水プラン」に事業のねらいや活動内容を掲載し、全校児童の保護者、地域関係者に配布した。
- ・随時学校ホームページを更新し各学年の取組をタイムリーに紹介した。また学校だよりでも各学年の取組や補助員の活動の様子を順番に紹介した。
- ・保護者アンケートによる評価において、約85%の保護者が特色ある学校づくり推進事業における取組を評価している。